



さろまげんき王国

保健福祉課保健推進係

Tel 2・1・2・1・2

受けていますか？

大切ながん検診

今年も町の検診の時期が近付いてきました。みなさん『がん検診』を定期的に受けていますか？町の検診を受けている方、職場の検診で受けている方、受けなくても自分は大丈夫だろうと思っている方、様々だと思います。少なくともは胃・肺・大腸がん検診を定期的に受けている方は、胃・肺・大腸のがんを早期に見つけるチャンスのある方です。では受けていない方はどうでしょう？今回の元気王国ではがん検診の必要性についてお伝えします。

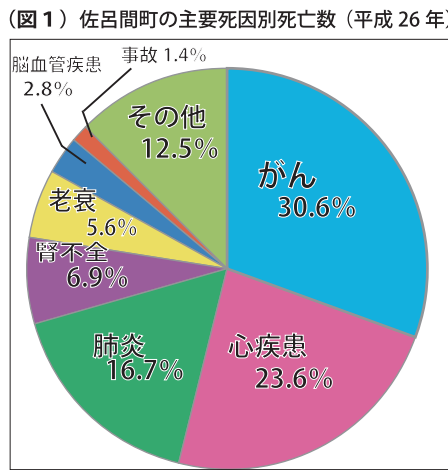
がんの現状

現在の日本では、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡するといわれています。がんは昭和56年より日本人の死因の第1位で、その死亡率は年々増え続けています。日本人の三大疾病と言われている「心疾患・脳血管疾患」はその

年によって変動がありますが、がんは右肩上がり推移し、昭和56年以降、現在に至るまでの死亡率は常にトップで改善がみられません。

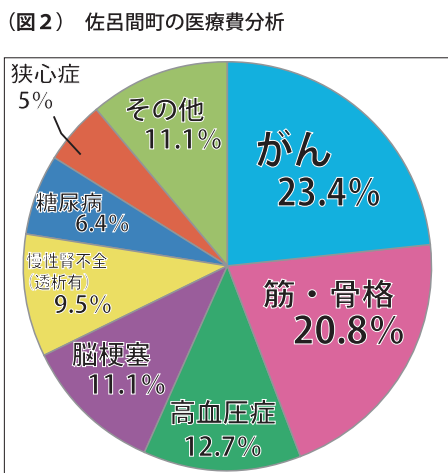
平成26年に佐呂間町で亡くなった方の主要死因別死亡数を見ると、がんで亡くなった方が30.6%と最も多くなっていました。（図1）

また、平成26年度の佐呂間町の医療費分析を見ると、がんの治療に医療費が最もかかっていたということ



がわかります。（図2）
2つの図から、佐呂間町でもがんで治療をうけたり、多くの方が命を落としているという状況がわかり、がんは私たちの生活を脅かす身近な病気となっています。

たとえ自覚症状がなくても、がんが体内に潜伏している可能性があります。定期的にがん検診を受けることで、がんの早期発見、早期治療につながります。



がん検診を受けた後に精密検査が必要と言われたことはありませんか？言われた方は、その後詳しい検査を受けているでしょうか？がん検診で精密検査が必要という結果が出た場合、「がんの疑いを含め異常（病気の可能性がある）」と判断されたということ。毎回精密検査となっているから、また同じだろうと思って精密検査に行っていない方もいるかもしれません。しかし本当にそうでしょうか？詳しい検査をしてみないと本当に同じ原因かどうかはわかりません。症状がなく元気だからと精密検査を受けない場合、がん検診で見つけるはずのがんを放置してしまうことになります。精密検査が必要と判定された方は、その原因について専門医を受診し、より詳しい検査を受けましょう。

「精密検査が必要と言われたら：？」

「がん検診」の無料クーポン券を活用しましょう！！

佐呂間町では、大腸がん検診が無料となるクーポン券を40歳、45歳、50歳、55歳、60歳の節目の年に送付しています。また、20歳の女性には子宮頸がん検診無料クーポン、40歳の女性には乳がん検診無料クーポンを送付し、受診を勧奨しています。対象の方はクーポンを利用しましょう。

※対象の方には6月にクーポンを送付しています。

佐呂間町では、平成27年8月と平成28年1月に胃がん、肺がん、大腸がん検診が行われます。また、平成27年7月と平成28年3月には乳がん検診、平成27年11月と平成28年2月には子宮頸がん検診が行われます。（詳しい日程は健康カレンダーの6月又は表1を参照してください）各種検診はいつでもお電話等での申し込みをお受けしております。また、「検診案内」と「申し込み用紙」を、実施日の約1ヶ月前に町内会より回覧いたします。

誰もががんになる可能性があるということを忘れず、がん検診を定期



保健福祉課保健推進係
Tel 2・1・2・1・2

大切な人を失った体験談

がん検診を受けることに抵抗がある方もいると思います。そして、「自分はがんにならないだろう」と思っている方、「誰でもがんになる可能性があるからがんになってもしょうがない」と思っている方もいるのではないのでしょうか。私の祖父も病気とは無関係と思っていた一人でした。

いつも遊びに行くと、ソファの定位置に座って多くは語らず、笑顔で話を聞いてくれる祖父でした。そんな祖父の自慢は、病院にかかったことがなく、それでも健康でどこも悪いところがないということでした。しかしある時、甘いものをよく食べるようになり、「糖尿病になるのでは？」と祖母が心配したことがきっかけで、病院で検査をするようになりました。高齢であったため、この際に全身検査をしてもらおうということになりました。結局糖尿病ではなく、そこで見つかったのが「大腸がん」です。

2回手術をして、入院を繰り返していました。私は夏休みにお見舞いに行き、「また冬休みに来るね。」と祖父と約束して帰ったのですが、その約束を果たす前に祖父は亡くなりました。最後にお見舞いに行った帰り際に、無口な祖父がベッドから身を乗り出して、病室から出る私に向かって「頑張るんだよ！」と言った光景は今でも忘れられません。亡くなった後に聞いたのは、見つかったときにはすでに進行しており、余命も言い渡されていたようです。毎年がん検診を受けていて、もっと早い段階で見つかったら違う結果があったのではないかという気持ちです。

何か気になる症状が出てから病院を受診するのでは手遅れになる場合もあります。がんが発生した部位によっては症状のあらわれやすさが異なり気づかないうちに進行していたり、発生した部位によっては病状の進行が非常に早いものもあります。そこで大切なのが年に1回のがん検診です。1年前の検診で異常がなくても安心せずに、40歳以上の方は1年に1回胃がん・肺がん・大腸がん検診を、2年に1回乳がん検診、20歳以上になったら子宮頸がん検診を受けましょう。がん検診を受けることで、早期発見、早期治療につながります。早期に発見する事は、心身に負担の少ない治療方法を選択しやすくなり、生活面での支障を少なくする事にもつながります。